

安間理子 (北海道大学工学院)



氏名 / Name	安間 理子 小澤 光理	コンセプト / Concept
所属 / Affiliation	北海道大学 工学院	はだか だから なかま 「集まって住む」という特徴が集合住宅にはあります。集合住宅には国籍も職業も年齢も、みんな違った人たちが集まります。そこに日本の昔ながらの文化である「はだかの付き合い」を取り入れることで、言葉を交わさずとも自然と互いにありのままをさらけ出し、より親密なコミュニティを築いていけるような集合住宅を考えました。集合住宅全体を巡る、プールを中心とした水の流れによって、ありのままを受け入れるはだかの空間が広がります。
部門 / Section	コミュニティデザイン部門 / 社会問題解決型住居部門	

アイデア / Idea

はだか だから なかま

多国籍の”はだかの付き合い”

互いにありのままをさらけ出す仲を意味する言葉です。半裸で歩き回れる共用の水回り空間を通して、様々な年代・出身の人がお互いを知り合っていきます。共用空間での体の距離が住民の心の距離も縮めていきます。

色々なバックグラウンドを持った人たち

ハダカ! ナカマ! ダカラ!

水の流れがみえる、はだかの住宅

人間の60%は水で出来ています。そんな人間の暮らしを支える大切な水の循環を可視化させた、はだかの集合住宅です。屋上のろ過装置によって綺麗になった雨水が、スロープを通して建物全体を巡ります。

○なぜその建物を作りたいと思いましたか?またなぜ応募しようと思いましたか?

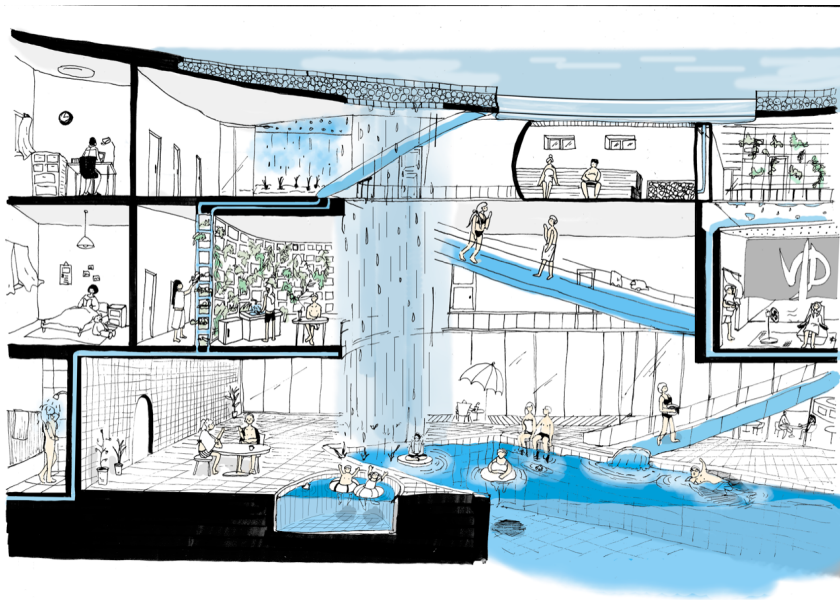
大学院の研究では、多様な人々が豊かに暮らすことを目的とした研究を行なっております。今回のComminicity というテーマである、様々な人が暮らすシェアハウスの提案に研究を通して今まで考えてきたことを生かせると思いました。

○提出作品を作るところに大変だったことはありましたか?

研究の合間をぬって作業を進めることが一番大変でした。

○実現するとしたらどこでつくりたいですか?

オリンピックが開催されるので、東京がいいなと思います。



○シェアハウスに住んだことはありますか?

あります。海外留学時に中国人、カナダ人、メキシコ人と住んでいました。共用空間に友達を招くときの、お互いの気遣いが大変でした。

○このコンペティションを通して今後こういったシェアハウスを考え、企画したいと思いますか?

みんなが楽しく暮らせるといいですね!

○最後に発表に向けて意気込みをお願いします!

北海道から参加しますのでこし緊張しますが、東京のみなさんに負けないようにがんばります!